

文教産業委員会

政策課題

1. 持続可能な農業生産を支える取り組み
2. 地域資源の活用と融合によるあらたな観光戦略
3. 若者が住んでみたい（住み続けたい）まちづくり
4. 協働のまちづくり

行政視察の報告

10月2日～4日の3日間、大分県宇佐市、別府市、熊本県人吉市を視察しました。

第6次産業創造推進事業について

【大分県宇佐市】

宇佐市は、宇佐平野が広がる穀物地帯で、特に米の生産量は県下一番で、第1次産業が盛んな土地柄である。海・山・里の豊富な地域資源に恵まれてい

るが、農業従事者の高齢化が進み、担い手不足から耕作放棄地面積が広がり、加えて農産物の価格低迷もあり、農業生産額が2割減少するなど、非常に厳しい中にある。

そこで、行政と農・商・工が連携し、需要と供給のマッチングを図り、単に「いいものを作る」から「消費者が求めるいいものを作る」の転換を図り、「地域資源200%活用でまちの元気を創出」による、宇佐市6次産業創造ビジョンがスタートした。

推進体系については、市長をトップに、県振興局・商工会議所・農協などのトップによる推進本部。副市長をトップに、関係団体や生産団体などが加わった推進協議会。この推進協議会を組織する各団体の担当者レベルの会議で、計画素案を作るなどのプロジェクトチーム。これら、3重の

構造で組織し、関係機関団体の連携を図り、そこにアドバイザーや専門家も加わり事業を進めている。

主な取り組みとしては、「宇佐ブランド認定制度」を立ち上げ、地場産の原料等を活用して製造・加工された農畜産物加工品のうち、特に優れた商品を認証し、県内外の消費者に對して広くPR活動をし、販売促進につなげている。

この制度は、平成22年度から始まった事業で、今まで53業者92商品の出品があり、外部専門家による審査により、現在70商品が認定されている。



地場産品において、優れた商品を確認する宇佐ブランドのロゴマーク

また、人材育成にも力を入れており、「ウサノチカラ創造塾」を開設。研修会を頻繁に開いて、ブランド認証に自己満足せず、厳しく選定して所得向上に繋げ、地域全体の活性化にも努めている。

誘客プロモーション事業について

【大分県別府市】

別府市は、温泉の湧出量、源泉数ともに日本一の温泉観光都市で、第3次産業従事者が8割を占めている。

観光客が伸び悩む中であって、観光客の年齢層も50代以上が半数を占めている現状であるが、今後は、ファミリー層や若年層への幅広い誘客が必要とされ、エンタテイメント要素あふれる、アニメキャラクターを多様に活用した観光プロモーション事業『エンタテイメントシティ・別府』を展開。積極的な情報発信を行うことにより、さらなる観光客の誘致



別府市役所で誘客プロモーション事業について視察している。

れている。

雇用創出について

【熊本県人吉市】

人吉市の人口は約35,000人、そのうち従業者数は約17,000人で、事業所数は2,347か所であるが、そのほとんどが第3次産業従事者で、小規模事業所となっている。

そこで、国・県の緊急雇用創出事業の活用により、業績が悪化している企業において、キクラゲ・シイタケ・マイタケなどの野菜生産を行い、「人吉産きのこブランド化推進事業」や「耕作放棄地を活用した農産物ブランド化推進事業」など各種事業を活用し、雇用拡大を実現している。地場産業の育成・振興策による雇用創出においては、特産品である焼酎原料用加工米生産の推進のため、JAと一体で球磨焼酎等のブランドの確立とともに、地元米で生産され